

# 沼津市における3才児の肥満傾向に関する調査 (分担研究：小児期の成人病危険因子の実態把握に関する研究)

梁 茂 雄

要約：沼津市の3才児1028名(男児530名, 女児498名)について肥満児の頻度を調査した。男児では15%以上の肥満者は20名(3.8%)女児では19名(3.8%)であった。

見出し語：沼津市, 3才児, 肥満度

はじめに

最近, 成人病の予防は小児期, 特に幼児期から開始すべきであるとされるようになってきている。

これは10才代の小児の大動脈の病理学的検討成績では, 既に98%に動脈硬化の初期病変が起きていることが明らかにされ, また学童, 高校生で動脈硬化危険因子を持つ者が多いことが明らかにされ, 早く成人病になる悪い生活習慣は幼児期にすりこまれることが想定されることによる。

児童, 生徒の持つ危険因子については, 5~15%において高コレステロール血症が認められ, 高血圧も2~3%に認められており, 肥満児も5%前後に認められることが明らかにされている。しかし, 幼児期においては十分な調査研究がなされていない。

また, 児童生徒において高脂血症を示すものが多くなった原因としては, 幼児期の食生活が大きく影響していると考えられるが, この点についても大きな調査が行われていない。

今回我々は幼児期の肥満の実態を沼津市に於いて調査をしたので報告する。

研究方法

対象ならびに調査期間：沼津市で行っている3才児検診における身体計測の資料を基に調査した。対象は平成元年5月から同年11月に検診を受けた男児530名, 女児498名, 計1,028名である。

肥満度の算定：村田らが開発したポケットコンピュータによる肥満度計算器を使用した, 15

沼津市市立病院小児科

Department of Pediatrics, Numaze City Hospital

％以上を肥満とした。

結果

身長：男児の平均身長は94.0±3.3cm，女児では93.2±3.4cmであった。

体重：男児14.4±1.5kg，女児は13.9±1.6kgであった。

肥満児の頻度：+15％以上の者は男児では20名（3.8％），女児では19名（3.8％）であった。

+20％以上の者は男児では4名（0.8％），女児出5名（1.0％）であった。最も高度の肥満度は男児では+40.4％，女児では55.8％であった。

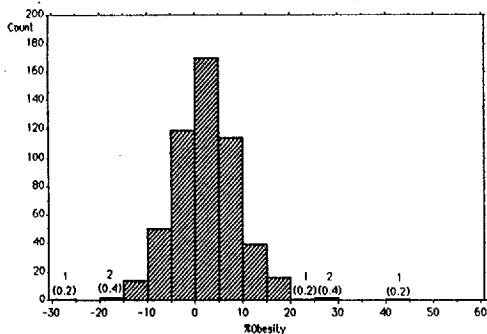
やせの頻度：-15％以上のやせは男児では3名，女児では4名であり，男児では最高のやせは-27.2％，女児では-18.8％であった。

肥満・やせと出生時体重：+15％以上の肥満群の出生時体重の平均は3,470.2±363.6g（最大4,350g，最小2,564g）で，-15％以上のやせ群では出生体重の平均2,773.8±169.7g（最大2,970g，最小2,495g）とそれぞれの群における出生時体重には有意の差が認められる。

図1 対象数ならびに男女の身長・体重の平均

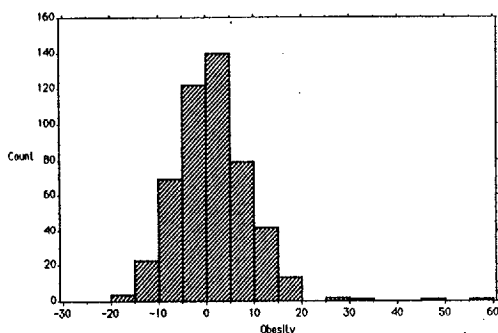
	男児 530名	女児 498名
身長 (cm)	94.0 ± 3.3	93.2 ± 3.4
体重 (kg)	14.4 ± 1.5	13.9 ± 1.6

図2 肥満度の分布 (男児)



From:	To:	Count:	Percent:	
1	-30	-25	1	.189
2	-25	-20	0	0
3	-20	-15	2	.377
4	-15	-10	14	2.642
5	-10	-5	51	9.623
6	-5	0	119	22.453
7	0	5	170	32.075
8	5	10	114	21.509
9	10	15	39	7.358
10	15	20	16	3.019
11	20	25	1	.189
12	25	30	2	.377
13	30	35	0	0
14	35	40	0	0
15	40	45	1	.189
16	45	50	0	0
17	50	55	0	0
18	55	60	0	0

図3 肥満度の分布 (女児)



From: (a)	To: (c)	Count:	Percent:	
1	-30	-25	0	0
2	-25	-20	0	0
3	-20	-15	4	.803
4	-15	-10	23	4.618
5	-10	-5	69	13.855
6	-5	0	122	24.498
7	0	5	140	28.112
8	5	10	79	15.863
9	10	15	42	8.434
10	15	20	14	2.811
11	20	25	0	0
12	25	30	2	.402
13	30	35	1	.201
14	35	40	0	0
15	40	45	0	0
16	45	50	1	.201
17	50	55	0	0
18	55	60	1	.201

図4 肥満・やせと出生時体重

	出生時体重	
	肥満群	やせ群
人数	39 (M:20, F:19)	7 (M:3, F:4)
平均値(♂)	3,470.2	2,733.8
S・D	±364.6	±169.7
最大(♂)	4,350.0	2,970.0
最小(♂)	2,564.0	2,495.0

男	3500	90.0	15.0	16.3
男	3750	100.0	18.3	16.6
女	3420	98.1	17.5	16.7
女	3900	93.1	16.0	16.8
女	3668	93.2	16.0	16.8
男	3570	92.8	16.0	16.8
女		94.8	16.5	17.0
男	3780	100.6	18.6	17.0
男	3366	93.8	16.4	17.1
男	3486	95.6	17.0	17.2
女	3720	102.0	18.9	17.4
男	3140	94.2	16.6	17.7
男	3226	90.1	15.2	17.8
女	2964	93.5	16.3	18.1
男	3391	91.0	15.6	18.2
女	3204	94.6	16.7	18.4
男	3420	93.6	16.5	18.7
男	2564	98.0	18.0	19.2
男	3364	107.4	21.1	19.2
男	3306	96.2	17.5	19.9
男	3532	97.6	18.0	20.0
女	3122	98.7	19.2	26.3
女	3854	99.7	19.8	27.7
男	3980	95.0	18.3	28.0
男	3458	96.8	19.0	28.4
女	3100	87.1	16.1	34.2
男	3656	99.6	21.9	40.4
女	3070	95.8	21.5	49.3
女	4350	93.7	21.5	55.8

図5 肥満度15%以上の幼児の内訳

性	出生時体重♂	身長cm	体重kg	肥満度%
女	3580	91.4	15.2	15.2
女	4000	97.8	17.3	15.3
男	3500	90.8	15.1	15.3
女	3520	90.3	14.9	15.5
女	3332	97.0	17.0	15.6
女	3450	102.9	19.0	15.9
男	3720	93.0	16.0	15.9
男	3180	93.3	16.0	15.9
女	4050	97.3	17.2	16.2
女	2674	95.0	16.5	16.2

## 考案

沼津市での3才児検診における15%以上の肥満児の頻度は男児・女児とも3.8%であった。肥満度20%の頻度は男児では4名(0.7%),女児では5名(1.0%)であった。

村田らの報告によれば15%以上の肥満度の頻度は男児では21/691(3.0%),女児では23/546(4.2%)であり,20%以上の肥満度の割合は男児7/691(1.0%),女児では10/546(1.8%)であり,これは沼津市での我々の調査結果とほぼ同様の結果である。

一方,奥野らの北海道での調査では15%以上の肥満度の頻度は男児では4.7%,女児では4.5%,20%以上の肥満度の頻度は男女共2.2%と我々や村田らの報告よりも高い数値が報告されている。

沼津市でのこれまでの3才児検診ではこの幼児の肥満に関する統一した指導はまだおこなわれていない。特に本来管理が必要な30%以上の肥満者もそのままになっている。

幼児期に15%以上の肥満者は5才時,小・中学校での肥満者に移行する可能性も高いと言われており,我々の今回の調査からもこれらの幼児の肥満者にたいする指導の必要性を痛感した。

今後,さらに調査を集積するとともに他のリスクファクターについても検討したい。

## 文献

1. 村田光範。他：1歳6ヶ月,3歳。および5歳児の肥満頻度と各年齢における肥満の経過について。小児保健研究、46(6):579-582、1987



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:沼津市の3才児1028名(男児530名,女児498名)について肥満児の頻度を調査した。  
男児では15%以上の肥満者は20名(3.8%)女児では19名(3.8%)であった。